

EPシリーズは、スカート有り・無、面打、掘込どのタイプでもお使い頂けます。レールはST製、AL製の2種からお選びください。

最大硝子サイズ：高さ1200mm以下、巾900mm以下(全硝子厚：5mm、6mm、6.8mm、8mm共通)

【注 意】 硝子の開閉は静かに行ってください。安全にお使い頂くために以下をお読みください。

確認事項(パーツの準備)

- レール

【切断加工】 間口より両端50mmずつ引いた長さに切断して下さい。アルミ製のレールの場合は、Vミゾに沿ってビス穴を明けてください。必ずスカートの穴位置と合わせてください。(図3)
- スカート

【切断加工】 間口と同じ寸法に切断してください。
- 引戸硝子

【高さ寸法】 ケース高さH寸法より、仕様に応じてガラスの高さ寸法を求めてください。(図1)
 ・STレール使用時 H寸法-42(スカートなし)、H寸法-43(スカート有り)
 ・ALレール使用時 H寸法-44(スカートなし)、H寸法-45(スカート有り)

【穴明加工】 15φの穴を図に従って明けてください。取付車用の穴です。(図2)

【補 足】 硝子面が広くなる場合は、飛散防止膜等の使用をお勧めします。
- 防音取付
ベアリング

【必要数量】 引戸硝子1枚につき2個使います。(3個以上は使用できません)
 ケース正面側の硝子には前引戸用、反対側には後引戸用をご用意ください。(図1)
- 振止め

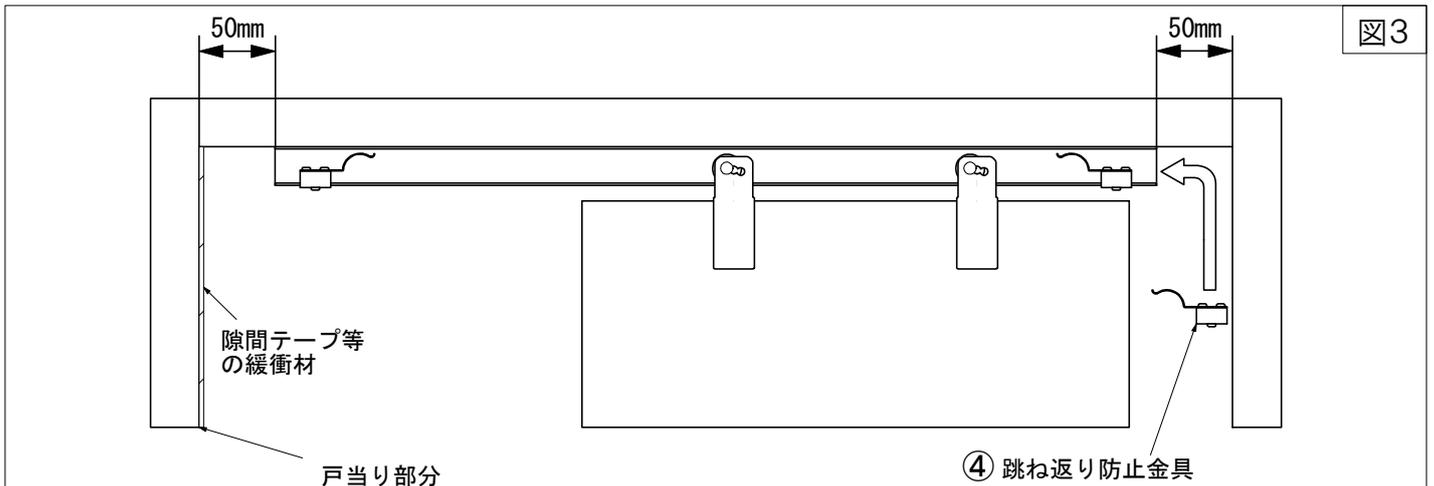
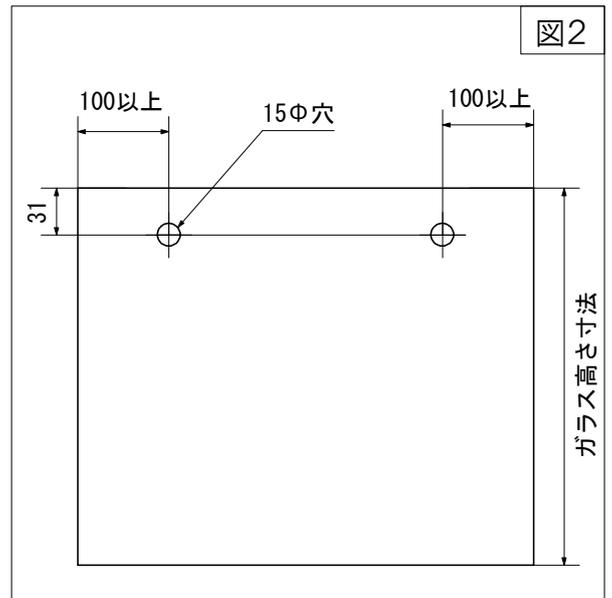
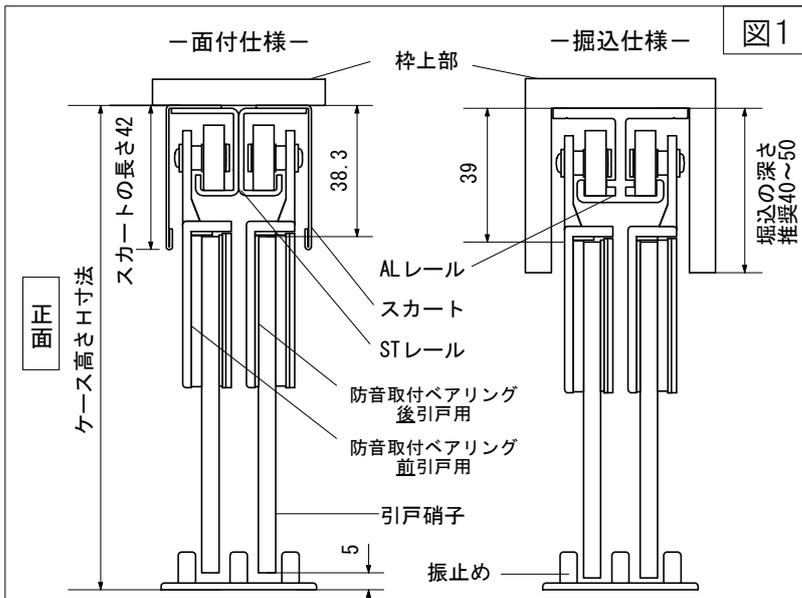
【必要数量】 引戸硝子の重なり部分のカウンター面に1個使用します。但し硝子下部にハカマをつける場合は、別途資料をご覧ください。(ハカマ仕様は別紙：硝子厚別参考セットプラン参照)

【補 足】 硝子の閉時のたわみが気になる場合は、硝子の両端に振止めをご使用ください。
- 跳ね返り
防止金具

【必要数量】 レールの内側に取付け、硝子1枚につき1組(左右2個入)使用します。(図3)

【注 意】 取付車のベアリングを補助的にキャッチするもので、引戸硝子を完全に受け止めるものではありません。必ずインセットでご使用ください。
- 破損止
戸当り(緩衝材)

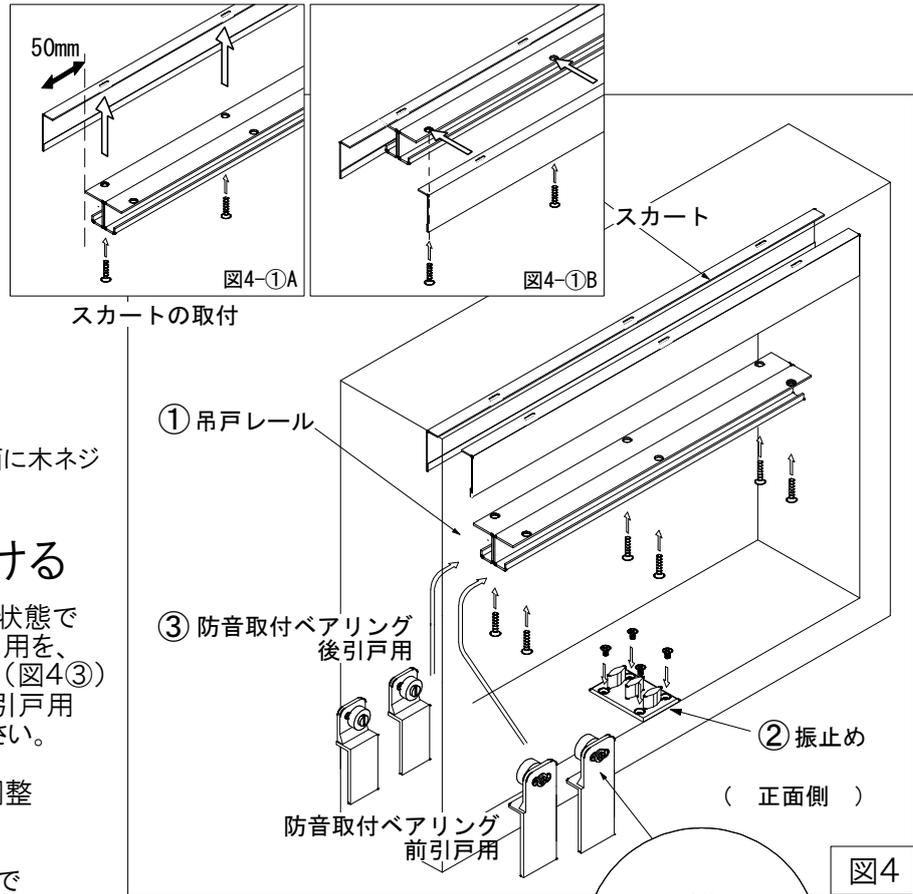
【補 足】 硝子の閉時の衝撃を和らげるために、硝子に破損止か、戸当り部分に緩衝材をご使用されることをお勧めします。



施工手順

① レール及びスカート
の取り付け

・吊戸レールをケース枠より両端50mm控えて、ネジなどで天枠にしっかりと固定します。
・スカートを使用される場合は、図の様に吊戸レールより上にビス穴位置を重ねて、しっかりと固定します。(図4-①A、B)



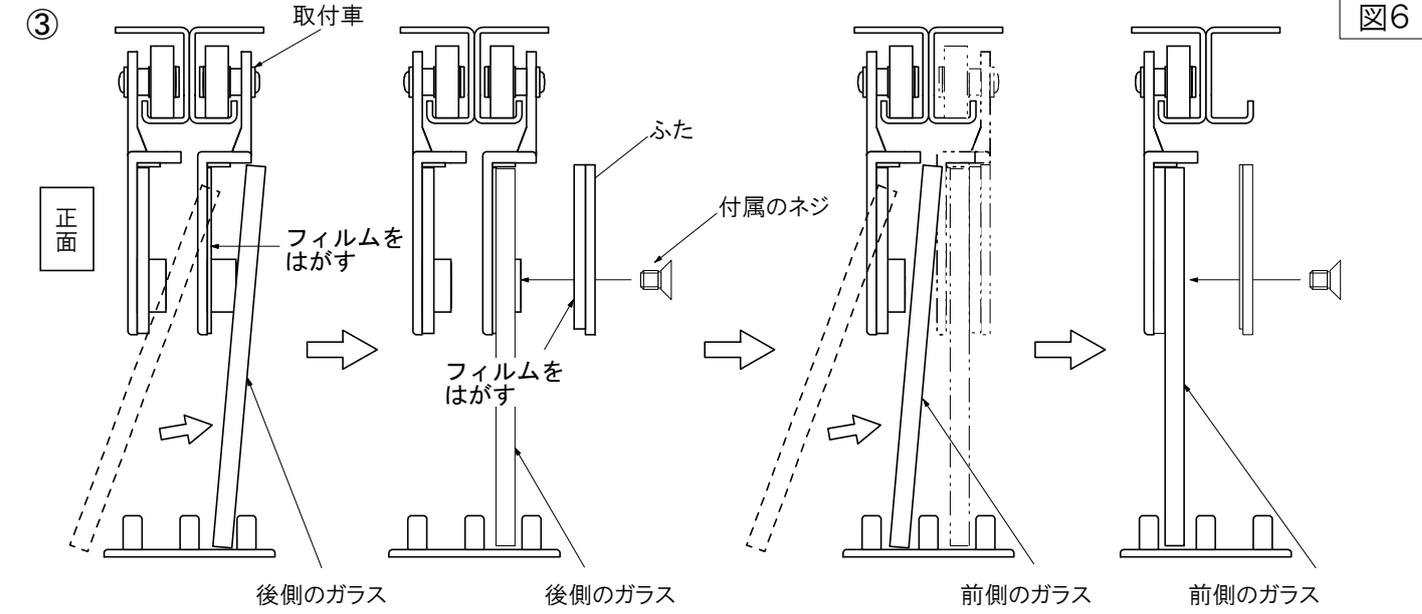
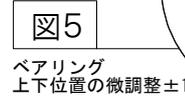
② 振止めを付ける

・振止めを硝子の重なり中央部のカウンター面に木ネジでビス止めしてください。(図4②)

③ ベアリングと硝子を付ける

・取付車のフィルムをはがし、ふたを外した状態で吊戸レールの端から、手前の溝に前引戸用を、奥の溝に後引戸用の取付車を通します。(図4③)
・レールに取付車をぶら下げた状態で、後引戸用取付車の凸部と硝子の穴を合わせて下さい。(図6)
・硝子の上下位置の確認、必要に応じて調整(図5)を行ってください。
※緩みの無いよう締め付けて下さい
・ふたのフィルムをはがします。付属のネジで取付車のふたを六角レンチ(M3※別売)で締め付けてください。
・同様に前側の硝子も吊り込んでください。(図6)

注) 取り付けの際は、レールの縁でベアリングをひねらないように気を付けてください。ベアリングのホルダーが損傷を受け破損する恐れがあります。



④ 跳ね返り防止金具を付ける

・吊戸レールの端を控えた部分から跳ね返り防止金具を挿入させます。
・吊戸ガラスを閉めてみて、跳ね返り防止金具が取付車をちょうど受ける箇所を決定し、その位置で、ビスを締め付け固定すると完成です。(図3 ④参照)

以上